

タイの障がい児に 座り・立つ生活を！

プロジェクト・バーン・フアンファー
ASAP(アジア姿勢保持プロジェクト)

タイの施設バーン・フアンファーには、
200人を超える身寄りのない障がい児
が、寝たきりで暮らしています。



寝たきりの生活は、
単調で
権利の実現や
成長する機会を奪い、
二次障害を引き起こします。



**ASAPの願いは、この200人の
子どもたちが、よい機器の補助で
座り・立って遊ぶことです！**



ワークショップ： 日本の姿勢保持専門家が バーン・フアンファーを 訪れ、子どもたちの姿勢 保持装置を



設計・製作・調整します。
タイの技術者や理学療法
士も、一緒に作ることを通
して学びます。

**究極の目標：タイの人びと自身の手で、
よい姿勢保持装置を、必要とするすべて
の人に、安定して供給できること。**





一般社団法人

日本車椅子シーティング協会

Japan Association of Wheel-chair and Seating



アジア姿勢保持プロジェクトは、
日本車椅子シーティング協会の
国際協力部門の一つです。

日本は40年にわたる
姿勢保持装置の製作
を通じて、独自のモノ
作りを育んで来ました。

- 日常生活中心
- 個別一貫製作
- 地縁技術
- 適正技術



ASAPは2014、15年に各2回ワークショップを
開催し、今後も年2回のペースで継続します。



ASAPは財政面での支援を求めています;

- 日本からタイへ専門家を派遣し、必要な機材を調達するための財源が必要です。
- 15万バーツ（約50万円）あれば専門家3名が1週間タイを訪れワークショップを開催し、12人の子どもを座らせるのと並行して現地の技術者を育てられます。

「締約国は、精神的又は身体的な障害を有する児童が、
その尊厳を確保し、自立を促進し及び社会への積極的
な参加を容易にする条件の下で十分かつ相応な生活を
享受すべきであることを認める。」
(子どもの権利条約 第23条第1項)

ありがとうございました